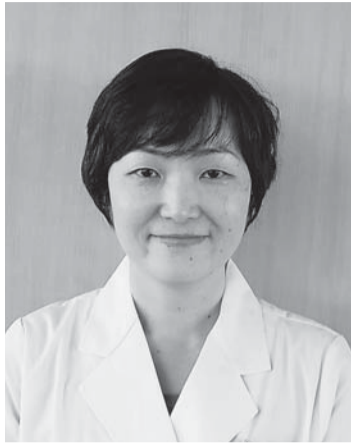


# 新たな地域薬薬連携モデル構築

## 「佐倉薬剤師ネットワーク」を設立



中道氏



富田氏

厚生労働省は、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて地域包括ケアシステムの構築を推進しており、医療や介護サービスにおいて連携が求められている。都内で開かれた厚生労働行政推進調査事業成果報告会「かかりつけ薬剤師・薬局の多機関・多職種との連携に関する調査研究」では、薬局が患者の病名

千葉県佐倉市にある聖隷佐倉市民病院薬剤科の富田歩子薬局長と、千葉県を中心に調剤薬局チェーンあやめ薬局などを展開するアシスト(本社・佐倉市)経営企画部の中道節部長らが中心となり「佐倉薬剤師ネットワーク」を設立した。佐倉市内4病院と門前薬局にとどまらず、面分業の

### 市内全域での連携目指す

### 薬剤師会ネットワークも活用

厚生労働省は、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて地域包括ケアシステムの構築を推進しており、医療や介護サービスにおいて連携が求められている。都内で開かれた厚生労働行政推進調査事業成果報告会「かかりつけ薬剤師・薬局の多機関・多職種との連携に関する調査研究」では、薬局が患者の病名

局側に情報提供を行っているが、富田氏は「限られた時間の中でお互いに意見交換をして議論を交わすことが難しい」と話

中道氏は「勉強会の案内が病院に全て通知されても、門前はその半分しか通知されず、個店は薬剤師会からアクセスが来なければ分からない」と話す。こうした薬局間における情報量の違いや、薬薬連携が取れていないことから今回、佐倉市内全域での連携を目指す佐倉薬剤師ネットワークを設立することに決めた。

### 情報共有ツールの導入

### 相互の意見交換の場も

まなかつたところを指摘する。千葉県内でも一つの基幹病院と複数の門前薬局との連携を図ろうとする動きはあるが、今回のような病院間や門前以外の薬局といった「市」規模での連携は、「全国でも初めて」という。

主な活動方針としては、共通の情報共有ツールとして「Dr. JOY」の導入が挙げられる。情報共有ツールの導入により、これまで一方通行となっていた情報や、薬局によっては得られなかった情報を簡単に共有することができるようになる。ネットワークでは、薬剤師会幹

部が役員に選出されているものの、薬剤師会と棲み分けているため、共通の情報ツールを導入することにより、これまで情報伝わりがなかった個店薬局だけでなく、非薬剤師会員の薬局にも情報共有が可能となる。定期的な研修会も予定しており、第1回研修会

科・部幹部のほか、佐倉市薬剤師会や印旛郡市薬剤師会など地区薬剤師会の幹部らが役員となっており、4病院間の横の連携に加え、薬剤師会の持つネットワークも活用していく考えである。

中道氏は「薬剤師だけでなく製薬企業や医薬品卸業者などを交えて行うことになっていく」と指摘する。一方、富田氏は「一病院が発



聖隷佐倉市民病院



Dr.JOYを導入しているあやめ薬局江原台店

## 空気をかえよう

お部屋の、暮らしの、空気をかえたい。  
お店の、売場の、空気をかえたい。  
そして、日本の、社会の、空気までもかえたい。

そのために、まず、私たちの、空気をかえます。  
私たちは、研究・商品で、空気をかえます。  
私たちは、営業・販売で、空気をかえます。  
私たちは、広告・宣伝で、空気をかえます。

エステーは、挑戦し、提案します。  
そして、空気をかえます。



## 化粧品の微生物試験ガイドブック

～防腐設計、製造工程管理から出荷検査、クレーム対策まで～

微生物技術アドバイザーとして活躍する著者が、化粧品の品質保証の要ともいえる微生物対策のノウハウをQ&A(181問)や事例を交えてわかりやすく解説した技術指導書。

【著者】浅賀 良雄(微生物技術アドバイザー) / A5判 / 280頁 / 定価3,000円+税

薬事日報社 ご注文は、オンラインショップへ (https://yakuji-shop.jp/)